



森のなかま

2016年9月号

NO.101 (継続246号)

事務所が移転しています!!

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 Tel.046-297-0301・Fax046-297-0302



真鶴半島
(真鶴町観光協会
ホームページより)

自然観察部会研修会『自然観察 技術向上のために』

平成28年7月3日(日)、快晴 場所:真鶴半島

【講師 野田 重雄 氏 8期、女川 修 氏 9期】

< 上野 潤二 11期 >

右写真 上より・ケープ真鶴にてオリエンテーション 午前の部の・野田班・女川班

まだ梅雨の最中にも関わらずこの日は真夏のような晴天。真鶴半島の魚付き保安林と海岸を舞台に、ベテラン講師による観察会を参加者の立場で体験し、個々の説明技術を磨くため、多数のインストラクターが集まりました。参加者は2班に別れ、講師が昼食後に交代する形で、午前中は林内、午後は海岸を歩きました。



野田氏からは、真鶴の植生は本来極相林になるはずだったが、江戸の大火後の木材不足のため積極的に植林された松が数百年保護され大木となって残っていること、クスノキは常緑広葉樹だが一度に葉を入れ替えるため落葉広葉樹のように薄い葉が輝いて見えることなどの説明を受けました。参加者に何をどのように見てもらいたいかを決め、森の仕組みや動植物と人とのつながりを自分の言葉で解説することを学びました。



女川氏からは、観察前の人数確認や講師より前に出ないといった基本的な約束の説明の重要性、「真鶴」の名前の由来(地図上の形が鶴に似ている、他)、江戸城の石垣の約9割が真鶴の石材である、などの土地の歴史から海岸植物の生態学的特徴・名前の由来・類似種との違いまで、丁寧に解説していただきました。



樹林内では、イヌビワ、タシロラン、クスノキの大木、ヤナギイチゴ、ムラサキニガナ、フウトウカズラ、マヤランなどが見られ、午後は、強い日差しの中、ハマユウ、ハマゴウ、スカシユリ、ボタンボウフウ、ハマカンゾウ、テリハノイバラ、ソナレムグラ、ハマエノコロ、ツルナ、マルバグミ、ハマボッス、ツルソバ、ハチジョウススキといった海岸特有の多数の植物のほか、是非見たかったウメボシイゾギンチャクも見ることができました。

お二人の講師の説明を通して、事前の下見と文献等で歴史と植生との関わりを十分調査し、話したい内容を整理すること、当日は参加者の安全に配慮しつつ、森林の現状・働き、自然の仕組みなどを自分の言葉で興味深く伝えることが、参加者の満足につながるのだということを学びました。暑い中有難うございました。今後の観察会では是非心掛けていきたいと思えます。

(続く 次ページ)

樹林内編



真鶴半島は魚付き林



かつてはNo1で現在はNo3のクスノキの大木



マツの大木



枯れ松にでていたキノコ
ヒトクチタケ?



イヌビワ(犬枇杷)



タシロラン(田代蘭)



マヤラン(摩耶蘭)

海岸編



暑かった!



ハマユウ(浜木綿)



ハマゴウ(浜栲、浜香)



スカシユリ(透百合)



ツルナ(蔓菜)



ボタンボウフウ(牡丹防風))



ハマグルマ(別名 ネコノシタ)



ラセイタソウ(羅背板草)



ウメボシイソギンチャク(梅干磯巾)

(写真:上野氏⑩、松石氏⑬、広報 松本⑪)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』支援団体としても取組んでいます。
全国で5番目/NPO法人で初委嘱されています。